

会員だより

【青森県深浦町】

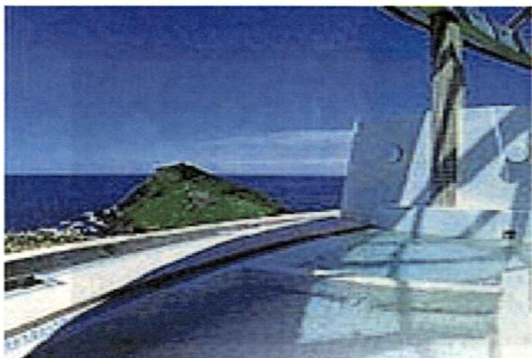
ウェスパ椿山ヨーロッパ風のコテージが魅力

深浦は、青森県の西南部に位置し、目の前には雄大な日本海が開け、背後にそびえる「世界遺産白神山地」に抱かれた自然豊かな町です。

その豊かな自然や歴史、伝統・文化、そこに暮らす心温かい人々、そして森や海がもたらす「恵」を生かした町づくりへの取り組みなど、我が町にはたくさんの魅力があります。その中のひとつ「ウェスパ椿山」を紹介します。

○コテージ・開閉式露天風呂

ウェスパ椿山は、滞在型のリゾート施設として誕生し、のどかなヨーロッパ風の風景を思わせるコテージが人気を集めています。また、開閉式露天風呂は、昼は日本海に突き出した絶景を、夜は夕陽と漁り火を眺めながら、最高の温泉気分が味わえます。



▲展望露天風呂から椿山を望む

○スロープーしらかみ号・風の丘しらかみ展望台

ウェスパ椿山の各施設に電力を供給して

いる風力発電に隣接する展望台とJR五能線ウェスパ椿山駅の間は電動スロープカー（定員40名）により結ばれています。車窓からは、遙か北海道の大島小島、男鹿半島（秋田）を望むことができるとともに、展望台からは雄大な世界遺産白神山地の大パノラマを楽しむことができます。



▲電動スロープカー



▲白神山地を眺望できる展望台

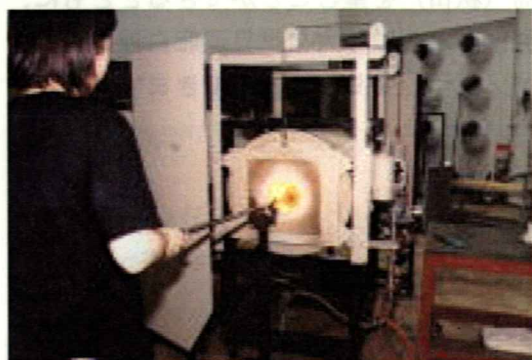
○ガラス工房「HOO（フー）」

クリーンエネルギーである風力発電でガラスを溶解する画期的な試みによるガラス工房HOO（フー）を建設しガラス工芸を通じて学習したり、楽しんだりできる施設

です。この工房は、多摩美術大学、秋田美術工芸短期大学と連携しながらガラス文化、造形文化を形成し、文化的に向上を図りたいと考えています。



▲ガラス工房『HOO』



▲ガラス工芸の様子

○昆虫館

自然環境の悪化が懸念されている昨今、今こそ自然の大切さについて勉強してほしいという思いから建てられた昆虫館です。この昆虫館はカブトムシをメインにして遊びながら自然について勉強できるたのしい施設です。夏休み期間中は、隣接する昆虫観察園でカブトムシに直接触れることができます。



▲カブトムシをモチーフにした昆虫館

**のどかなヨーロッパの風景が思い浮かぶ、そんなたたずまいの‘ウェスパ’
藍色の夕陽の光が外壁を染め、ロマンを一層かき立てる。雄大な自然の中で、
自分だけの旅のイメージをひろげてください。**



皆さん是非おいでください。お待ちしております。詳しくは、深浦町ホームページをご覧ください。 → <http://www.town.fukaura.aomori.jp/>

【秋田県男鹿市】

男鹿市市制施行50周年の記念事業が目白押し！

昭和29年3月に男鹿市が誕生して半世紀、今年本市は市制施行50周年を迎えました。今年は50周年記念事業が目白押しで、3月の記念式典・記念講演会を皮切りに、船川港に関係するところでは、男鹿海洋高等学校実習船「船川丸」の体験乗船（6月2日）、毎年恒例となっている豪華客船「飛鳥」の寄港（8月5日）、昨年、港湾緑地において初開催し好評を博した「男鹿日本海花火」（8月14日）、海上自衛隊護衛艦や海上保安庁巡視船の見学会、体験航海などが予定されており、港も大いに賑わいそうです。



▲豪華客船『飛鳥』の寄港



▲『男鹿日本海花火』

そのほかの記念事業として、記念誌「時を刻む」の発行や今年8月公開予定の人気映画「釣りバカ日誌15」の市内ロケ、テ

レビ公開放送番組の収録、各種スポーツ大会、市内小中学生や高校生、市民の芸術鑑賞会など様々な事業を実施、計画しております。

50周年以外の話題としては、昭和42年の開館以来、長年親しまれてきた戸賀湾の男鹿水族館が、新たに「男鹿水族館GAO（ガオ）」としてリニューアルオープンすることになっており、この夏、観光地男鹿に新たな魅力が加わります。愛称のGAOはGlobe（地球）、Aqua（水）、Ocean（大海）の頭文字をとったもので、男鹿の地名やナマハゲの力強さをイメージしたものです。旧施設の2倍程に規模をスケールアップし、「育みの海～生命を育てる水宇宙」を基本テーマに展示構成され、趣向を凝らしたコーナーも多数登場する予定です。



▲この夏にリニューアルオープンする男鹿水族館『GAO』

男鹿は海、港を介して、その歴史、文化が育まれました。そして、移り変わる社会情勢の中、市勢発展の礎を築かれた数多の先人、たゆまない努力を続けた地域の人々の力により、今日の男鹿市が築かれました。今を生きる私たちは、この美しい日本海と豊かな緑に囲まれ、ナマハゲに代表される歴史と伝統に育まれた素晴らしいふるさとを大切に、次世代に引き継ぐとともに、これからも海、港と深く関わりを持ちながらまちづくりを進めていきたいと考えています。

「全国大漁旗フェスティバル」で地域の活性化を図る

大漁旗がなびく中、地元産の鮮魚を格安に提供する「全国大漁旗フェスティバル」が、去る5月2日（日）、温海町の鼠ヶ関漁港で開催されました。

このイベントは、地元の鼠ヶ関漁業青年会のメンバーが中心となり、消費者と直接コミュニケーションができる感謝祭を通して、漁業後継者の意気を高め、地域の活性化を図ろうと毎年開催しているもので、今年で13回目を数えました。今ではゴールデンウィークの恒例行事としてすっかり定着し、県内外から行楽客がどっと押し寄せます。

今年は朝から青空が広がる好天に恵まれ、会場に掲げた大漁旗約800枚が気持ちよさそうになびいていました。これらの大漁旗は北は北海道から南は九州まで、庄内浜に寄港した全国の漁業仲間から寄せられたもので、色とりどりの旗でお祭気分が一気に高まります。



▲全国大漁旗フェスティバルに押し寄せる行楽客たち

山形県漁協念珠ヶ関支所で行われた大人の鮮魚販売では、午前10時半の販売開始

を前に500メートルほどの長蛇の列ができ、最前列の家族連れは午前7時から並んだというほどでした。前日の夕方に水揚げされたばかりの新鮮なアカエビやハタハタ、タイ、アカラ、ヒラメなどの魚介類約20トンを用意し、市価の3～5割引で販売。また、ホッケやスケソウダラなど氷入りの水槽に入った40種ほどの魚が1袋500円で詰め放題のコーナーなどがあり、開場と同時に押し寄せた家族連れらが両手いっぱい買い込んでいました。



▲新鮮な魚介類を販売する様子

もう一つ人気の的が魚のつかみ取りコーナー。巨大いけすにはサメの子どもやヒラメといった魚や大タコなどが次々に放され、訪れた子どもたちは普段触れることが少ない生きた魚やタコの吸盤の感触に大はしゃぎでした。

屋外屋台では、魚汁、エビ焼き、イカの一晩干し、焼きそばなどが提供され、新鮮な魚介の味に舌鼓を打っていましたし、地元の太鼓演奏と漁師の威勢のよい掛け声が響き、鼠ヶ関漁港は古くからの漁師町として終日活気にあふれていました。

【編集・問い合わせ先】

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 広報官 千葉忠樹

TEL 022-716-0001 FAX 022-716-0017

E-mail : chiba-t82ab@pa.thr.mlit.go.jp